

## 移住者・日系人支援と日系社会との連携強化

中南米全体で約213万人の日系人が、さまざまな分野で活躍し、移住先国の発展や日本との懸け橋として重要な役割を果たしています。

JICAは、戦後の国の政策による中南米などへの移住者に対し、移住先国での定着と生活の安定を図るための支援を行ってきました。現在は、日系社会の成熟や世代交代による課題の変化に対応した支援と、日系社会との連携強化に取り組んでいます。

### 主な事業と取り組み

#### 1. 新たな連携に向けて

2018年は、明治元年に日本人が初めてハワイに集団移住した年から150年。ハワイで行われた第59回海外日系人大会では、北岡理事長が記念講演を行いました【→ P.8を参照ください】。

2018年6月には、「中南米日系社会ネクストリーダーズ・フォーラム」を外務省と共催し、外務省により招へいされた日系社会次世代リーダー、JICAの日系研修員や留学生、在日日系人、在日日系社会に関心を持つ日本の若者など約180名が、さまざまなテーマについて意見交換しました。

また、2019年1月には、日系人ビジネスリーダーとの関係構築や、事業展開の可能性を日本の企業や地方自治体関係者に紹介する目的で、南米5カ国から12名を招へいし、福岡県、長崎県を訪問しました。

#### 2. 知識普及

JICA横浜の海外移住資料館では、海外移住の歴史や移住者・日系人への理解促進を目的に、移住者の渡航関連記録や移住者からの寄贈資料の常設展示、さまざまなテーマでの企画展示、関連図書・映像資料を収めた図書資料室やウェブサイトによる情報提供と調査研究を行っています。2018年度の訪問者は4万4,296人、開館以来の訪問者は56万人を超えました。

2018年度の企画展示としては、「日伯110年の絆—在日ブラジル人：在日30年をむかえた日系人の歴史と日常」「ハワイ日本人移住150周年記念企画展示：元年者に始まるハワイ移民と邦字紙が果たした役割」「ペルー日本人移民120周年記念企画展示：マチュピチュ村を拓いた男 野内与吉とペルー日本人移民の歴史」を開催しま



中南米日系社会ネクストリーダーズ・フォーラム

した。

#### 3. 移住先国での支援

ポリビアの移住地診療所とブラジルのアマゾン病院の運営、ブラジル、ポリビア、ドミニカ共和国での巡回診療や高齢者福祉事業、ブラジル、アルゼンチン、ドミニカ共和国、ペルー、コロンビアでの日系日本語教師を養成するための事業を助成しました。

#### 4. 次世代の人材育成

体験入学やホームステイなどを通して、日本の文化・社会への理解を深め、日系人としてのアイデンティティを向上させるため、移住者の子孫である中学生、高校生、大学生対象の招へいプログラムを実施し、2018年度は合計100人を受け入れました。

また、日本の大学院で就学する日系人に対する側面的な支援として、滞在費、学費などを支給しています。2018年度は新たに6人を受け入れました。

#### 5. 日系社会と地域社会への支援

日系社会で日系人の人々と共に生活し、日本語教育や福祉などの分野で協力する日

系社会ボランティアを派遣しています。2018年度は83名を新たに派遣しました。

また、「現職教員特別参加制度(日系)」を通じて2018年度は5人の現職教員をブラジルの政府公認校に派遣しました。帰国後は、その経験を生かし、在日日系人子弟に対してより適切に対応していくことが期待されています。

さらに、大学、地方自治体、公益法人、民間企業などの提案により、日系社会から研修員を受け入れて、各国の国づくりへの協力と、国を超えた交流の促進を図っています。2018年度からは、対象者を日系人に限定せず、中南米地域の日系社会と日本との連携に主導的役割を果たす方とし、合計137人を受け入れました。

#### 6. 日系社会と民間セクターとの連携事業

日本企業と日系人が経営に携わる企業などとのパートナーシップ促進を図ることを目的とした中南米日系社会との連携調査団を、2018年度はペルーとパラグアイに派遣しました。その結果、JICA民間連携事業などを活用する企業、または独自で中南米への海外展開や国際協力を行う企業も出てきています。